平成 24 年度病害虫防除技術情報（第１号）

和歌山県農作物病害虫防除所
TEL　0736-64-2300

１．対象作物：カンキツ（甘夏、ネーブル、伊予柑等の罹病性品種）
２．病害虫：かいよう病
３．対象地域：県内全域
４．発生量：やや多
５．発生期間：葉（発芽直後～10 月）　　果実（幼果～10 月）
６．発生状況
１）　カンキツかいよう病については、昨年 6 月 24 日付けで病害虫発生予察注意報第３号を発表したが、その後も以下のとおり多発傾向が継続している。
２）　県予察ほ場(無防除)における3月中旬の越冬病斑の発病葉率は30.8%(平年17.4%)と平年より高かった（表１）。
３）　昨年の巡回調査（海南市、有田市、有田郡、御坊市、日高郡、田辺市）によると、8 月 18～19 日の発病園率（春葉の調査に基づく、以下同じ）は 37%（平年 26%）、10 月 13～17 日の葉の発病園率は 23%（平年 15%）と平年より高かった。2003～2011 年における 6 月の発病園率とその前年 8 月の葉の発病園率には正の相関が認められ（図１）、今後の発病の増加が心配される。
７．防除上の注意事項
１）　本病の病原細菌は気孔や傷口から組織内に入って発病する。展葉期の防除は、銅水和剤の予防散布が重要である。散布時にはクレフノン 200 倍を加用する（IC ボルドー66D を除く）。IC ボルドー66D の場合はアビオン E 1000 倍を加用する。
２）　生育期間中に強風雨等の影響を受けた場合に被害が拡大するおそれがあるので、防風垣や防風ネット等を設置して対策を講じる。
３）　越冬病斑及び新葉の病斑は果実への伝染源となるので、剪除に努める。

表1 県予察ほ場のネーブルにおけるかいよう病の近年の発病状況

年	越冬病斑の発病葉率（%）
2002	5.0
2003	10.3
2004	26.3
2005	32.8
2006	39.8
2007	8.1
2008	22.8
2009	6.5
2010	6.9
2011	15.1
2012	30.8
平年（2002～2011）	17.4

※3月中旬に調査

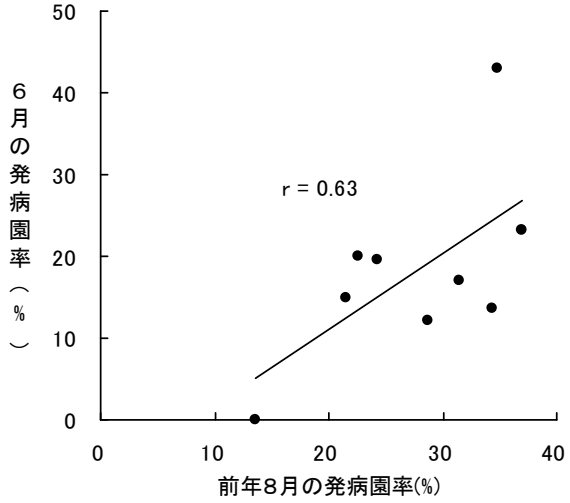

図1 和歌山県におけるかいよう病の6月の発病園率とその前年8月の発病園率の関係
※2003～2011 年の6月中旬及び 2002～2010 年の8月中旬の巡回調査に基づく
※温州ミカン、八朔、甘夏、ネーブル、伊予柑、清見、不知火の春葉について調査